

## 第 51 回実力アップセミナー報告

平成 31 年 2 月 24 日(日)健康福祉総合センターにおいて「地域での栄養ケア活動を進めるために」をテーマに第 51 回実力アップセミナーが開催されました。地域包括ケアシステムが全国で推進されている中で増大する在宅療養者に対する食事・栄養支援への人材確保と栄養ケアサービスの提供をどのように進めていくのか また、介護予防・自立支援にむけた地域の取組である地域ケア会議に栄養の助言者として参画することは専門職種として重要な機会になります。今回のセミナーの前半は、地域ケア会議への参画にむけた埼玉県を取り組みを伺い、後半で各地区での状況を参考に地域での栄養ケア活動をすすめる意見交換をしました。

### 「地域ケア会議への参画にむけて～埼玉県栄養士会の取り組み～」

菊田 晴代

埼玉県栄養士会で地域での栄養ケア活動を進めるための取り組みについて、埼玉県栄養士会地域活動事業部運営委員長の川島啓子氏を講師にお話を伺いました。

2016 年に埼玉県は 65 歳以上の人口の伸び率が全国 1 番となり急速な高齢化が進んでいて県内各市町村で構築される地域包括ケアシステムに統合された地域に於ける栄養ケア活動の推進が急がれています。埼玉県栄養士会は、行政から平成 26 年度より栄養ケア活動支援整備事業を受託し、3 年間で地域包括ケアシステムと連動した栄養ケアシステムの構築を行いました。地域に於ける栄養ケア活動を進めるための地域ケア会議への参画に向けて、埼玉県栄養士会はいくつかの取り組みを実施しました。モデル事業を実施するにあたっての課題としては地域ケア会議への管理栄養士の理解が足りない状況であることや、行政や他職種との連携が不足していて互いの顔が見える関係がないことや、在宅での助言力不足等です。自立支援型地域ケア会議ではケアマネジャーが作成したケアプランに対して、自立支援を必要とする高齢者がその地域で自立した日常生活を営むことができるように支援することが重要であり、以下の事項を実施しました。

- ① 在宅の栄養ケアを担える潜在管理栄養士の人材の確保。
- ② 在宅の栄養ケアの体制整備として他職種協働による栄養ケアユニットの設置。栄養ケアユニットとは、地域の核になる医療機関や在宅医療との連携によるもので在宅における栄養ケアの質の向上を目指し、また地域栄養ケアの拠点作り（認定栄養 CS）は予防的栄養ケアを目指します。
- ③ 自立支援型地域ケア会議への参画。これは栄養の専門職として在宅療養者への栄養面での問題に対して実践可能なアドバイスをを行い在宅栄養ケアの向上を図りました。栄養支援への地域課題の検討や行政と他職種との連携で包括的栄養ケアの構築、向上を目指しました。

実施する時に栄養士が助言者として必要な事は

- ① 管理栄養士として多方面でのスキルアップの必要がある事。
- ② 課題の整理の仕方が重要であり、環境的因子・個人的因子を整理する事。  
(例えば環境因子としては車椅子の人が独居で 2 階で生活している等)
- ③ 療養者の自立支援につながる実現可能な地域資源も含めた条件の見出し方を検討する。
- ④ 多職種にもわかる言葉で簡潔にまとめる力を持つ（会議で短時間で的確に発言できる）
- ⑤ 多職種との連携などです。

ケアマネジャーや多職種のスタッフの方々の中には食事に関して余り意識しない方も多く「食事は何か食べていけばそれでいいでしょう」という状況もあり、栄養に対しての必要な意識改革として、ケアマネジャーや医療機関・医師(会)へのアプローチを行う、他職種との合同研修を行う、地域での顔の見える関係を構築するなどを心がける事が大切です。

栄養士はこんな事ができる！栄養がその人を支えている！という事を積極的にアピールする必要があります。積極的アピールの方法として介護支援専門員の研修会や他職種の研修会、模擬ケア会議、他職種連携会議、栄養地域活動支援事業(地域住民への支援事業)などで栄養の重要性を伝え、その人に合ったアドバイスが出来る事が望まれます。助言者は指導ではなく、あくまでも栄養士の立場からの助言であること、専門職としての視点が必要です。

埼玉県が平成28年度から実施している埼玉県自立促進モデル事業は和光モデルを参考にその地域の実情に合った地域ケア会議を作り、地域包括ケアシステムの構築につながるように支援するものです。先般の栄養ケアユニットの管理栄養士は、埼玉県栄養士会の研修を受講しているか、または埼玉県の行政による研修を受講した管理栄養士を起用することにより質の担保をしています。もう一つのルートとして自立支援型地域ケア会議への依頼が市町村から、市町村の管理栄養士や地域の病院栄養士に来る事もあります。自立支援を理解して対応できるように準備しておかなければなりません。

在宅療養者にとって重要な栄養ケアと地域コミュニティにとって必要な栄養ケアを栄養士会の組織としての動きを通して一緒に盛り上げていきましょう。めざせ！地域栄養ケアシステム

後半は、地区幹事や実際に会議に参加している方から地域ケア会議の現状報告があり、参加者の職種や地域差など詳細がわかりました。

2019年度に神奈川県栄養士会としては、県内の理学療法士、作業療法士、歯科衛生士と四士会を立ち上げ県の担当者にバックアップしていただきながら共に専門職種として同じ視点で地域ケア会議に臨むようスキルアップを図る研修会を3回計画している。各事業部から地域ケア会議への参画にむけた人材を推薦し地域ごとの特性を多職種で共有できる研修会と専門職としての基礎を身につける研修会を二本立てで進め神奈川県栄養士会から該当者を県に推薦するところまで進めたいと考えている。3月21日には多職種との研修会を予定していることを事業部会長よりうかがいました。

このセミナーを受講して、管理栄養士・栄養士はセミナーや研修会をしっかりと受講してスキルアップし理解を深め、更に行政の政策や方向性に意識を高める必要がある事を再認識しました。